

# 学校だより

1月号

港区立白金小学校

発行人 加納 一好

平成三十一年一月八日



たくましく生きる

校長 加納 一好

新年明けましておめでとう、ございます。

昨年の漢字ですが、私は平成や大谷翔平選手と紀平梨花選手の活躍から「平」を予想していたのですが、違いました。本校の漢字については「平」以上の「充」にしたいと思います。昨年も様々なことはありましたが充実した一年でした。日々の教育活動とともに運動会や学芸会などの学校行事を通して、子供たちは大きく成長しました。これも保護者や地域の皆様のご協力があったからこそだと感謝しております。もちつきもありがとうございました。こうした日本の伝統文化は今後も大切にしていきたいと思えます。

さて、二〇二〇年に完全実施される新学習指導要領が告示されて一年が経とうとしています。小学校での外国語の教科化などで注目されている今回の学習指導要領ですが、引き続き「生きる力」を育むことが重視されています。「生きる力」とは「複雑で予測困難な時代の中でも、児童一人一人が、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の担い手となることができる」力と示されています。

本校の子供たちには、さらに「たくましく生きる力」を身に付けてほしいと思っています。今の子供たちは恵まれた環境の中で過ごしています。少し暑くなればエアコン、寒くなればヒーターです。「夏は暑く、冬は寒い。」のです。映画「赤ひげ」で三船敏郎さんも「少しくらい寒い方が人間は鍛えられる。」と言っています。本校の子供にも、少しの寒さや暑さに負けないたくましさ、がまん強さを身に付けてほしいと思います。おしゃべりをがまんしたり友達に譲ったりできる、厳しい状況に追い込まれても「このくらい大丈夫だ」と跳ね返す強い気持ちです。

話ばかりですが、学校アンケートで、給食について、子供が「まずくなつた」と言っているというご意見を複数いただきました。給食は昨年同様、おいしいと思います。ただし、メニューはかわりました。昨年度より魚のメニューが増えました。ひじきや切干大根、ごまなどの日本の伝統的な食材も多く使われるようになりました。栄養のバランスや噛むことなども考えています。好きな料理だけでなく何でも食べて、たくましい体をつくってほしいと思います。

さあ、今年も亥年、猪という「猪突猛進」。今年も「突」や「進」のような漢字が選ばれるといいですね。「突破」の「突」、「自分自身の限界を突破する」。そのような年にしたいと思えます。本年もどうぞよろしくお願ひします。

## 席書会・書き初め展について

国語部 伊藤 美由紀

本校では、一月十日（木曜日）に、全校で席書会（書初め）を行います。低学年は硬筆で、中・高学年は毛筆で書きます。

書初めとは、年が明けて初めて毛筆で書や絵をかき行事で、通常は一月二日に行われます。元々は、朝一番に井戸から汲んだ若水を使って、墨をすり、恵方に向かって詩歌を書くという宮中の儀式だったものが江戸時代以降に庶民に広がったというのが起源だと言われています。

現在では、日常生活で毛筆を使うことはほとんどなくなりましたが、日本の伝統文化を継承するという意味で、学校では席書会を今後も続けていきたいと思えます。

冬休み中、書初めの練習に一生懸命取り組んだ成果を、席書会で発揮してほしいです。

今年も教室内の展示を止め、廊下と特別教室を使っての展示にしました。そのため、展示期間中は時間内に自由にご覧いただけます。

書き初め展は左記のように行いますので、ぜひご来校ください。

展示期間 一月十五日（火）～十九日（土）

時間 八時一五分～一六時半

※土曜日は十二時一五分まで

展示場所 廊下・階段掲示板

交流室

## 主体的・対話的で深い学びを実現する指導の工夫 ～発展的学習を通して～

研究推進委員長 白石 裕彦

本校では、今年度「主体的・対話的で深い学びを実現する指導の工夫～発展的学習を通して～」という主題の下、研究を進めています。以前お伝えした「プログラミング教育」も、この発展的学習の一環として位置付けています。

十月に、四年生がプログラミングの研究授業を行いました。単元の初めには、順序や条件分岐などのプログラミンの考え方を理解するために、歯磨きのプログラムを考えました。毎日当たり前のように行っている歯磨きも、いろいろな行動の組み合わせで出来ていることが分かりました。人間は、意識しなくてもこれらの一連の行動を行うことができますが、コンピュータには、逐一命令しなければいけません。プログラミング教育では、自分が意図したことについて、命令を組み立て、指示するにはどうしたらよいかを考えるプログラミング的思考を育むことが求められています。研究授業では、クイズのプログラムを自分なりにアレンジして、オリジナルのクイズを作りました。社会や理科で勉強したことも生かしながら、楽しそうに取り組んでいました。

プログラミング教育以外では、十一月に一年生が学級活動の研究授業を行いました。冬のお楽しみ会の計画を自分たちの力で話し合うという内容でした。一年生としては高度で発展的学習と言えます。驚いたのは、子供たちがよく聞き、深く考え、話し合っている姿でした。司会進行をしていた子供たちも立派でしたが、みんなが協力し、スムーズに話し合いを進めていました。もちろん、これは一朝一夕にできるものではありません。一学期から少しずつ学級活動の話し合いを経験し、積み重ねていった結果、子供たちが自分たちで進められるようになったのです。担任の綿密な指導計画ときめ細やかな指導が子供たちの学習を支えていました。

実態をよく見極め、その少し上の学習活動を設定すると、子供たちは意欲をもって取り組み、そして成長していきます。三学期も引き続き、子供たちがさらに成長する学習を追究し、適切な支援を行っていきます。一月には、五年生の算数でプログラミングの研究授業を行います。